

## 三重県文化会館で 県民制作型《カルメン》 矢崎彦太郎指揮、オリジナル版で上演

三重県文化会館（津市）が開館30周年を記念し、ビゼーのオペラ《カルメン》を制作。11月17日（日）に上演する。パリを拠点とし、フランス音楽を得意とする指揮の矢崎彦太郎は「初練習では児童合唱のレベルの高さに驚いた。通常のウィーン上演版と異なるビゼーのオリジナル版で演奏します」と張り切っている。

管弦楽はアマチュアの三重フィルハーモニー交響楽団。矢崎は2006年に初めて指揮し、11年に名誉指揮者に。ブルックナーの交響曲第4番やドヴォルザークの交響曲第8番などの指

揮を続けてきた。歌手はオーディションなどで選んだ。合唱は地元の暁高校混声合唱団を中心に編成。演出は津の第七劇場代表・演出家の鳴海康平が担う。「三重県の総力をあげて制作を進めている」と同会館。矢崎は「オリジナル版の上演という面白さがある。ウィーン版のレチタティーヴォでなく、台詞を交える歌芝居であり、ビゼーが劇的なことを書いていることがむしろこの版では伝わります」と話している。

13時半開演。問い合わせは☎059・233・1122、同会館チケットセンターへ。



「三重フィルや合唱団など、演奏レベルは大変高い」と話す矢崎彦太郎